

バイデン政権の高圧経済戦略の帰結は？

BNPパリバ証券チーフエコノミスト 河野 龍太郎

- * フランクリン・ルーズベルトの再来か
- * レーガンomicsとは何だったのか
- * 税の累進構造は復活するか
- * 何が所得格差を生むのか
- * 景気上向きでも利上げは難しい
- * 日本の潜在成長率低迷の主因
- * 非正規雇用の増加も追い打ちに
- * 新陳代謝より雇用維持のジレンマ
- * 内政志向のバイデン政権と中国について
- * 日本では公的債務累増が消費を抑制



柴生田 それでは聞かいたします。（拍手）
本日は、BNPパリバの河野さんにおいでいた
ただきました。

改めてご紹介の必要もないかと思いますが、
1964年のお生まれで、横浜国大を出られた
後、住友銀行、大和投資顧問を経て第一生命、
その後現在のBNPパリバ証券にお勤めでいら
つしゃいます。

フランクリン・ルーズベルトの再来か

経済動向を語っていただく方は何人かこの俱
楽部でもお呼びしておりますが、非常に明快に
分析をされ、わかりやすくお話をいただけます
ということで、たいへんありがたく来ていただいた
ているわけでございます。

河野 龍太郎

経済動向を語っていただく方は何人かこの俱
楽部でもお呼びしておりますが、非常に明快に
分析をされ、わかりやすくお話をいただけます
ということで、たいへんありがたく来ていただいた
いるわけでございます。

今回は、バイデン政権が誕生してアメリカの
経済戦略が次第に明確になりつつある中で、世

界経済がどこへ行くのか、そしてまた長期停滞
が続いている日本がどういう問題を抱えている
か、そういうあたりをお話しいただけるとい
うことでございます。

それでは河野さん、よろしくお願ひいたします。
その後現在のBNPパリバ証券にお勤めでいら
つしゃいます。

フランクリン・ルーズベルトの再来か

河野 皆さんこんにちは。BNPパリバ証券
の河野龍太郎です。本日は、日本の長期停滞の
真因と米国の金融政策、アメリカの経済動向に
ついてお話をします。前半部分がアメリカ、後
半部分が日本です。

まずアメリカについてですが、もう皆さんご
案内のとおり、最近アメリカの消費者物価が上
がる傾向があります。